

第 25 回 東京六大学対抗グライダー競技会 開催にあたって

第 25 回東京六大学対抗競技会会長

慶應義塾大学航空部部長

足立 修一

第 25 回東京六大学対抗グライダー競技会の開催をとてうれしく思います。

本大会を開催するにあたり、多大なご支援・ご協力をいただきました日本学生航空連盟、日本航空協会、日本滑空協会、そして熊谷市のみなさまに厚く御礼を申し上げます。また、本大会の運営をしてくださる大会役員のみなさまの献身的なご協力に感謝いたします。

2019 年夏に東京大学を幹事校として、第 22 回東京六大学対抗グライダー競技会が開かれた後、2020 年の第 23 回大会はコロナ感染拡大のため中止されました。昨年の第 24 回大会は開催時期を 8 月から 12 月に変更して、早稲田大学を幹事校として実施されました。大会関係者の努力で、六大学対抗戦のバトンがつながりました。そして、今年の第 25 回大会は、従来のように 8 月に、暑さの聖地である熊谷で開催されます。慶應義塾大学が第 25 回大会を、幹事校として運営させていただくことを大変光栄に思います。

東京六大学対抗戦は、六大学関係者にとって特別な意味がある大会です。神宮球場で行われる東京六大学野球が最も有名ですが、野球以外にもさまざまな競技で六大学対抗戦が実施されています。その中で、東京六大学対抗グライダー競技会が 25 回の節目を迎えたこと、大変喜ばしく思います。もう 25 回、いやまだまだ 25 回です。私事ですが、今年度で私は慶大を定年になるため、第 26 回大会以降は、この大会の OB として外から眺めることとなります。今後の六大学対抗戦の発展を大変楽しみにしています。

グライダー競技はパイロット個人の技量だけでなく、地上クルーを含めた部員全体の団結力の戦いです。六大学の各校は、それぞれの大学の誇りをかけて総力をあげて競ってください。この時期は暑さとの戦いにもなるでしょう。選手のみなさんは体調管理に十分気をつけて試合に臨んでください。そして、「安全な飛行」、これが本大会の第一の目的です。選手の皆さんは日ごろの訓練の成果を発揮するためにも、安全な飛行を心掛け、母校の名誉のために戦ってください。